

プロトコール名 BEP療法

- 進行・再発癌
 術後補助化学療法
 術前補助化学療法
 大量化学療法
 局所療法
 その他(放射線治療併用)

| 投与順 | 抗癌剤名(商品名・略号) | 1日投与量 | 投与法 | 投与時間 | 投与日(d1, d8等) |
|-----|--------------|-----------------------|------|------|--------------|
| 1 | ブレオマイシン | 30 mg/body | 点滴静注 | 30分 | d2,9,16 |
| 2 | エトポシド | 100 mg/m ² | 点滴静注 | 60分 | d1-5 |
| 3 | シスプラチン(CDDP) | 20 mg/m ² | 点滴静注 | 120分 | d1-5 |
| 4 | | | | | |

| | |
|----------------------|----------------|
| 1コース期間 (次コースまでの標準期間) | 3 |
| 総コース数 | 基本3コース(最大4コース) |
| コース間での休薬の規定 | 基本は休薬しない |

| | |
|------------------------|---|
| 減量規定・中止基準 | 基本は減量、中止はしない ・高度の骨髄抑制等の副作用出現、アレルギー等 ・間質性肺炎・肺線維症等の重篤な肺症状 |
| 投与量の増量規定 | なし |
| 投与期間の短縮規定 | なし |
| コースによる変化 | なし |
| 1日の中での抗癌剤投与順 | エトポシド→CDDP→ブレオ |
| プレメディケーション・ポストメディケーション | <プレメディケーション> day1-5:グレニセトロン注1mg+デキサメタゾン6.6mg (患者によるアプレピタント) day9, 16 :デキサメタゾン3.3mg |

患者条件

※CTCAE v4.0

PS0-2、主要臓器機能が保たれている

除外規定

- ・ブレオ、エトポシド、CDDP(または白金を含む製剤)に対し重篤な過敏症の既往歴あり
- ・重篤な骨髄抑制、腎障害、肝障害、肺障害、心疾患がある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性あり
- ・胸部あるいは腹部に放射線療法を受けている患者
- ・感染症合併、および発熱を有し感染症を疑われる患者

実施上の注意点

- ・減量や、休薬により有効性が低下する報告があるため、できるだけスケジュール通りいくために制吐剤やG-CSF等の支持療法を考慮する。
- ・ブレオマイシン:労作性呼吸困難、発熱、咳、捻髪音(ラ音)、胸部レントゲン異常陰影、A-aDo2・Pao2・DLcoの異常などの初期症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。最大360mg/bodyまで(他のレジメンでは300mg/bodyまで)